

健診室からのお知らせ

当院実施の人間ドックには、ABI 検査が含まれています

動脈硬化は加齢とともに進行するため、一種の老化現象ともいえます。しかし、血管の状態には個人差があることから、食事、運動、喫煙、飲酒、ストレスなどの生活習慣の違いによって大きく影響されます。近年、生活習慣の欧米化と高齢化社会の進展により、高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などの疾病が原因となる動脈硬化性疾患が増加の一途をたどっています。

動脈硬化は心筋梗塞や狭心症のような虚血性心疾患や脳梗塞など重要な臓器の血管が詰まりやすくなってしまいうほか、指シの壊ソ、大動脈瘤などの合併症も引き起こす血管疾患です。脳・心血管障害は日本人の死亡原因の約 30%を占め、これは第 1 位の悪性新生物（癌）とほぼ同じ割合です。いずれも死因となる重大な病気ですので、早期発見・早期治療が重要なのです。（図 1）

また、下肢動脈硬化により発症する「下肢閉塞性動脈硬化症」（図 2）も高率に虚血性心疾患や脳血管疾患を合併することが知られています。下肢閉塞性動脈硬化症は生活の質や生活活動強度を低下させるだけでなく生命予後も悪化させますので、本院の人間ドックにこの疾患を診断する主要な検査として「ABI 検査」を実施し、早期発見のため勧めています。

ABI 検査とは、非侵襲的なスクリーニング検査として頻用される検査で、血管障害の簡便な予後指標とされています。「ABI 検査」と称していますこの検査には 2 つの項目、「足関節上腕血圧比;ABI」と「心臓足首血管指数;CAVI」を同時測定しています。前者は重症粥状動脈硬化による血管の狭窄ないし閉塞を反映する指標とし、後者は心臓から足首までの動脈の硬さを評価する指標で、いわゆる血管年齢を評価しています。

（図 3）

この検査に興味のある方やご自身の健康が気になる方は、この機会にぜひ受診してみてください。

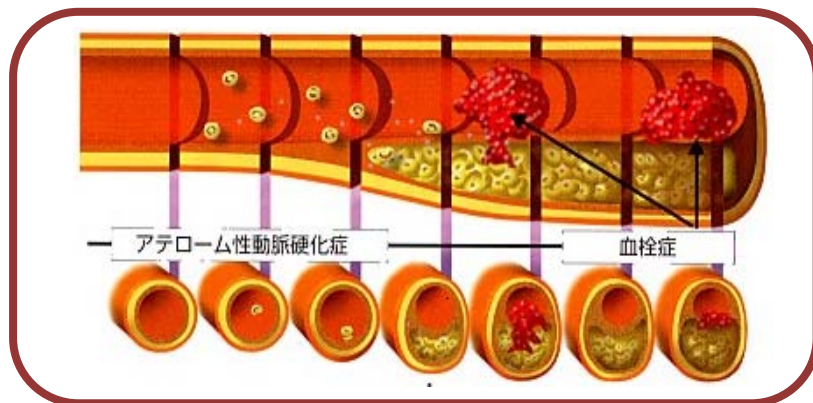


図 1) 動脈硬化の進展

動脈硬化が進展することにより、血液の通り道が狭くなっていきます。

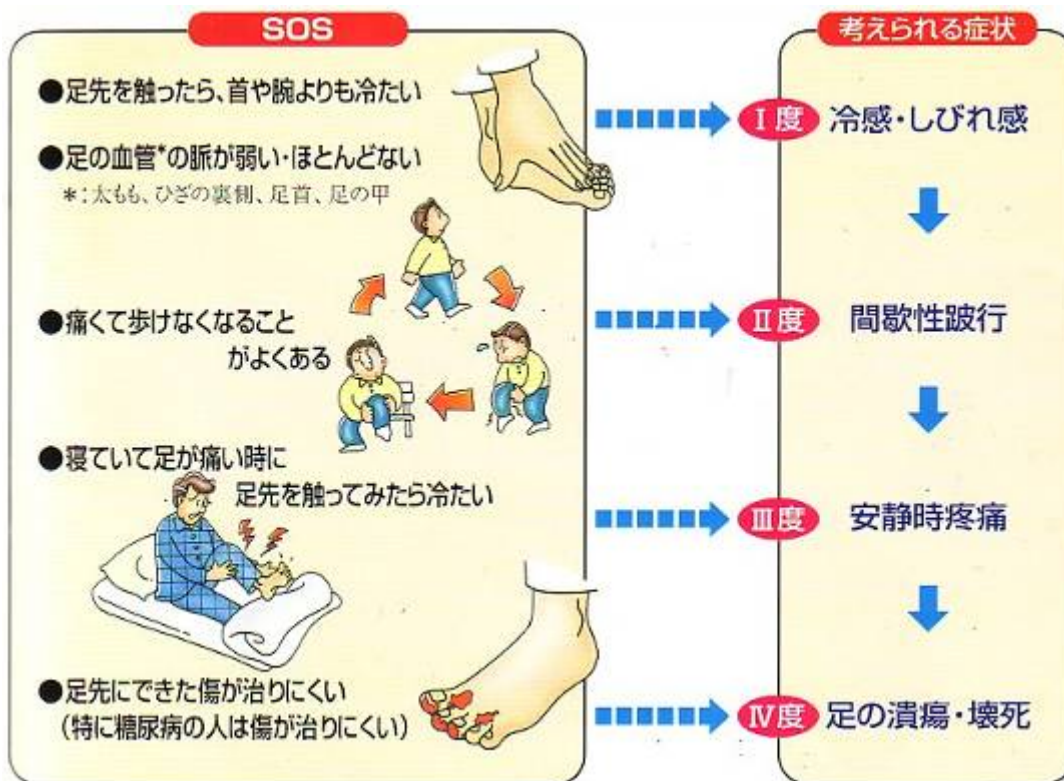


図 2) 閉塞性動脈硬化症の分類（重症度は4段階に分類されます。）

この病気は動脈硬化のうちですが、特に腹部から下肢の動脈すなわち大動脈下部から大腿動脈の範囲によく見られる血行障害です。

足がいつも冷たかったり、しびれたり、間歇跛行（かんけつはこう）といって歩くと下腿（ふくらはぎ）の筋肉が痛くなるなどの症状がでできます。この疾患は、全身に進行した動脈硬化のひとつであり、他の血管でも動脈硬化が進行している疑いがあります。

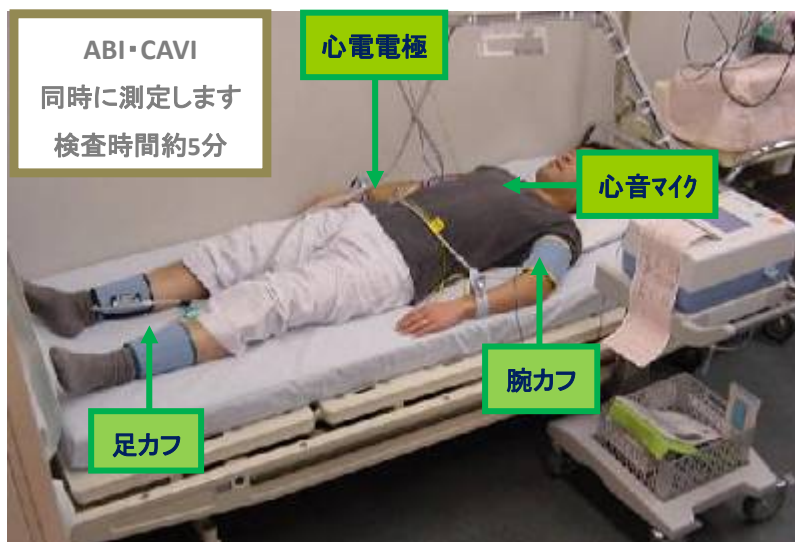


図 3) 検査の様子



血管も大切な臓器です。

この検査に興味のある方やご自身の健康が気になられる方は、
この機会にぜひ受診してみてください。

仁生会甲南病院


結果用紙

検査目的		項目	測定値	標準値	検査結果
動脈の硬さの程度 (CAVI)	右	7.1	~ 9.0	血管の硬さは50代前半に相当します。	
	左	7.3	(7.7±0.9)	血管の硬さは50代前半に相当します。	
動脈の詰りの程度 (ABI)	右	0.99	0.9~1.3	正常範囲ですが、境界領域(0.9~1.0)です。	
	左	1.01		正常範囲です。	

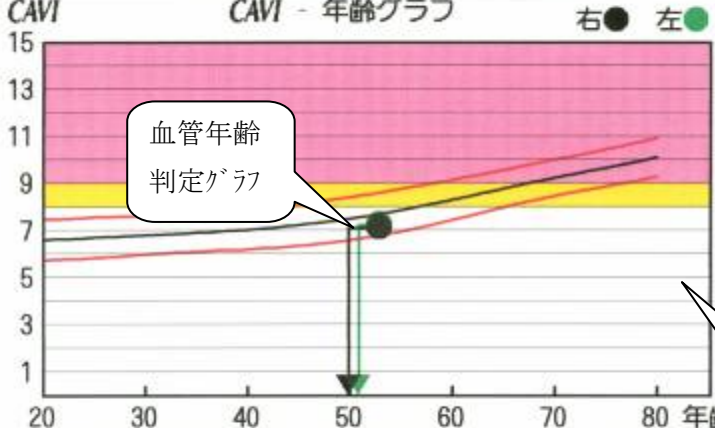
CAVI 計測値
9.0 以上:
動脈硬化疑

ABI 計測値
0.9 以下:
動脈閉塞または狭窄疑

検査の結果は
いかがでしたか




CAVI - 年齢グラフ



血管年齢判定グラフ

血管年齢グラフ

右上腕血圧 131/ 80 (96) 脈圧 51	左上腕血圧 129/ 86 (96) 脈圧 43		右足 今回の検査では正常範囲です 左足 今回の検査では正常範囲です
右足首血圧 129/ 68 (90) 脈圧 61	左足首血圧 131/ 73 (88) 脈圧 58		適切な運動と 次回検査日 年 月 日

左右上腕・足首血圧

検査所見 年 月 日

コメント